

# 人流

市川 浩

新型コロナ我國の現状、緊急事態宣言既に十都府縣に及び、大阪府に於ては初期症状の患者を診察治療すべき醫療機關逼迫し、可惜自宅待機中の落命已まずと云々。人呼んで之を醫療崩潰とするも醫療其のものは健在にして、發症患者受入れ態勢の問題なり。當該の感染症は五種類中の第二種と指定せられ、之に對する治療機關は法律により限定せられ、所謂町の醫院にては診察治療不可と言ふ。尤も假令特別許可すと雖も、酸素補給、人工心肺など高度醫療機器の有無や取扱の習熟度等を考ふれば法律の運用のみにては解決せず、戰爭に喩ふるの非を敢てせば、前線の兵士は勇猛果敢に戦ふも利あらざるに、援軍は裝備貧弱にて參謀本部敢て派遣を許可せざるが如し。

然れど豫兆は既に昨年において、感染者も未だ多からざるに、既にPDF検査機能不足し、宿泊隔離も随ならず、偶々發熱し、保健所に相談の電話を掛くるも、「御話中」として十時間も要せりと云々。この問題大人數對象の施策、所謂アベノマスク配布、コロナ対策一時金の配布等と同じく、我國の情報管理態勢の脆弱性を博く露見せしむ。一朝一夕には解決不能なるは明瞭なれども、一國民として疑問に思ふは、所謂SNSにて通常のスマホ利用者が炎上とて、或「書込み」に對し多數の受信者より一齊に反應して發信する有り。この時、發受信混雜による通信機能の痲痺は聞くこと少し。

之等當時は幸ひにも大きな問題に廣らざりけるが、對策を考へたる自治體は、今回のワクチン接種にも柔軟對應すなりと思料せられ、既に沖繩縣は離島四島の對象者全員の接種を一日にて完了すと云々。大衆報道（マスコミ）はかゝる優良自治體を取材し、世間を啓蒙すべきなり。

この大人數問題の究極は政府對全國民の意思疏通に極まる。世の識者今回の緊急事態宣言を昨年のそれとの比較を論じて曰く、今回は三度目にて、國民の間に倦怠感ありと。其の原因として傳言力（メッセージ）を論ず。この語かの地にては大統領の教書を指すあり、政府よりの國民への呼び掛けなり。而して國の傳言力の稀薄を批判する多し。

之を考ふるに、我國は言靈の幸はふ國、助くる國なるを思はば、言葉には特段の配慮の必要なること論を俟たざるべし。其の意味にて今回の標語「人流抑制」は如何なりや。流の字漢土にては水の流れを主たる意味とするも、本朝にては「ながる」と訓みて月足らずの死産、質物の抵當流れ、杯酒のしたたり（滴）など（大字典）孰方かと謂はば人爲の及ばざるもの多し。文語の復興を目指す我等も「時流」に抗せず苦戦す。況して驛より勤務先に向ふ多勢の勤勞者の映像に「人流」を認知するも、そこに我は不在なり。斯くては「言靈の助け」も儘ならざらむ。

ならば如何にすべしや。思ふに前回はソーシャルディスタンス、英語にて正しくは社交距離

と譯すべきも特に和譯せず、何となく世間、社會の他人との距離、而して人と自分との距離を保つべしとの共通理解得られ、各人の行動に反映せられたるに非ずや。されば標語は前回通りとし、寧ろ「科學的知見」とて、マスクは不織布製の有効性確認せられけるを受け、之の大量生産並びに洗淨再使用不可の弱點解決の爲の使用済マスクの回収、再生對策の開発など實施への協力要請などを打出すは如何。

(令和三年五月二十七日受附)